

氷華集

*当月の雑詠から尾池和夫 抄出

子規庵の今に実りし糸瓜かな 角田ひろ子 氷壺集

海鳥に見られ露天湯秋の浜 中嶋文子

はきだめ菊はびこるままに秋の雨 佐藤美智子

海に月のせ伊勢湾の葉月汐 西村みゑ子

閑かなる環濠の町小鳥来る 唐坂由加里

掌に弾けて軽し椿の実 渋谷啓子

秋彼岸遺影の母と瓜二つ 鈴木あるの

名月を置き去りにして早寝とす 岡田幸子

海外へ鞆一つや秋日濃し 屋嘉比順子

山莊を閉づる錠前そぞろ寒 佐々木 成

黄落やまなざし遠き陶人形 鴻坂佳子

焼藪や会ひたき人は遠く在り 吉田多々詩

鶏頭を見れば思ひし綾子の句 高橋キセ子

秋水や木の橋掛かる明智越 城島千鶴

銀杏散る港へ直ぐな坂の道 高橋千画子

母の去ぬ古屋の屋根に木の実降る 立石律子

山の色湛へダム湖の秋の昼 酒井富子

基地の町に城まろやかや小六月 志多伯節子

リヤカーを降りて園児の秋の原 重富國宏